

# 地方の中小企業の農業参入

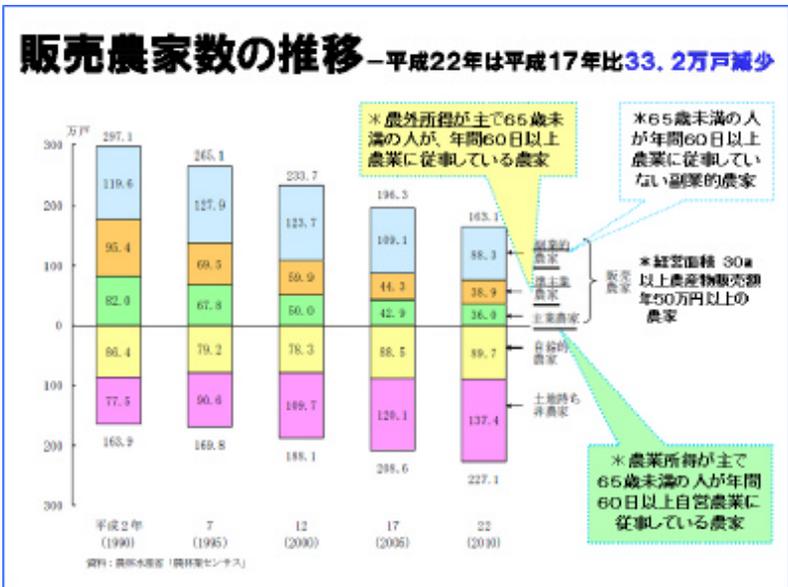
～規制緩和（改正農地法）で増加

農林業センサスによると、平成22年の販売農家数は平成17年比33.2万戸減少しており、農業者の高齢化や担い手の不足、またそれを主因とする耕作放棄地の増大など、日本農業の基盤の弱体化が予想を越えて進んでいる。そのなかで、法人経営体を有力な担い手として推進する政策が始まっている。そうした流れは規制緩和も手伝って、従来の農業内部からの法人化だけでなく、農業外の一般企業等の参入例もあり、ここ数年地方の中小企業の農業参入は増加している。

しかし現実には、小規模・分散的な圃場条件や、国際的に高い賃金水準を前提に、消費者が求める安全・安心な品質、輸入食料との競合（価格競争）環境への配慮など、国内農業に課されている環境は極めて厳しい。これに対し、一般に経営、販売力等で優越するとはいえ、農業に参入した株式会社はどのような狙いや戦略を持って、農業をビジネスとして捉えようとしているのか。

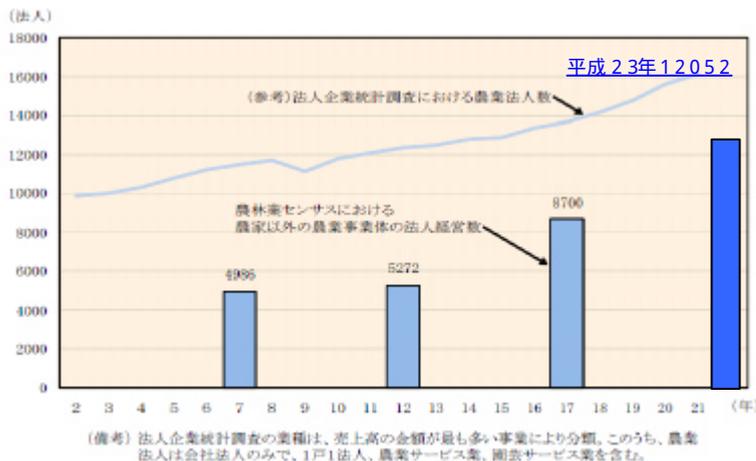
地方の食品会社が農業参入するケースが報告されているが、これは自社の本業との連携を狙ったもの。自社商品の原料確保のために産地の生産者と協業で農業生産法人を立ち上げているケースもある。従来中国からの輸入に頼っていたが、輸入価格の高騰、安全・安心、安定供給に不安が出てきた。業務用でも安全・安心を求められ、JGAPの認証取得に取り組んでいる。栽培技術がないので、肥料商やJAなどの指導を仰いでいるが、安定生産には苦労しているのが現状だ。また耕作放棄地利用の場合には、土壌の履歴が不透明であることから、経済性を持って耕作可能になる為に数年を要すケースもある。先ず一箇所で時間を掛けて栽培ノウハウを蓄え、そして周年供給を目指し全国展開を狙っている。

さらに、農業に掛かる資金等は、専門の知識を持っているJA、普及所のOBを採用し、うまく補助金も活用している。しかし、病気や害虫の発生、規格外等農産物のロスが多く、バラつきも多いのが悩みだ。栽培技術の蓄積は一朝一夕にはいかない、時間が掛かる。



## 農業法人数の推移

平成7年は4,986法人      平成23年 12,052法人



# 原発事故損害賠償の動向

東京電力は、昨年9月12日より個人を対象に、9月21日より法人・個人事業主に対して賠償を開始している。原子力の開発利用に当たっては安全確保を図ることが大前提であるが、万一の場合の原子力事故による被害者の救済等を目的として、「原子力損害の賠償に関する法律」(原賠法)に基づく原子力損害賠償制度が設けられている。現在、東京電力 福島原子力補償相談室が、対象としている17都県(青森、岩手、宮城、秋田、山形、福島、茨城、栃木、群馬、埼玉、千葉、東京都、神奈川、新潟、山梨、長野、静岡)で説明会を開催している。

この法律は、原子力事業者に無過失・無限の賠償責任を課すとともに、その責任を原子力事業者に集中し、賠償責任の履行を迅速かつ確実にするため、原子力事業者に対して原子力損害賠償責任保険への加入等の損害賠償措置を講じることを義務づけ(賠償措置額は原子炉の運転等の種類により異なるが、通常の商業規模の原子炉の場合の賠償措置額は現在1200億円)、賠償措置額を超える原子力損害が発生した場合に国が原子力事業者に必要な援助を行うことが可能とすることにより被害者救済に遺漏がないよう措置する、等について定めるものだ。

既に福島県では生産者、流通・加工業者、サービス業など色々な業種での説明会が開催され賠償請求している。農産物の損害は、出荷先が生産者に代わって組合、集荷業者、JAなどが纏めて請求している。請求書の種類は11種類に分かれ、損害項目に応じて請求することになる。風評被害の損害は多岐に渡り判断が難しいところであるが、下記東電の相談センターが対応してくれる。

詳細は、東京電力 福島原子力補償相談室福島原子力補償相談室(コールセンター)0120-926-404  
補償相談センター：福島県内は4箇所(福島市、いわき市、郡山市、会津若松市)、仙台、柏崎、栃木、群馬、茨城、埼玉、東京、千葉、神奈川、静岡に各1箇所。

## 今冬の記録的大雪 ~ 春の作業遅れが心配! ~

気象庁の発表によると、平成23年12月後半から平成24年2月初めにかけて、北日本から西日本では低温となり日本海側を中心に記録的な積雪となった(第1表ご参照)。積雪が平年を上回っているところが多く、平年の2倍以上となっている所もあるほか、山地では3メートルを超える積雪となっている所もある。気象庁が積雪を観測している全国330地点中、15地点で1月の最深積雪の記録を更新したほか、7地点で年最深積雪の記録を更新した。

これは、シベリア高気圧の勢力が非常に強く、日本付近ではたびたび強い冬型の気圧配置になったことが原因の様。また、上空を流れる偏西風の蛇行が大きく、日本付近では南に蛇行し、しばしば強い寒気が流入した。世界的には2012年1月半ば以降、ユーラシア大陸中緯度帯を中心に強い寒気が流入し、気温が平年より低い状態が継続し、2月になって、寒気の影響はヨーロッパ中部から西部にも広がっており、2月中旬まで寒気が流れ込む模様。北海道や東北では春の作業遅れが心配される。

第1表 積雪の深さ上位30位の地点(2月3日10時現在)

積雪の深さ(2月3日10時現在)									
順位	観測所	都道府県	観測値	平年比	順位	観測所	都道府県	観測値	平年比
			cm	%				cm	%
1	藤ヶ湯	青森県	439	151	10	入店瀬	新潟県	277	147
2	肘折	山形県	380	142	12	小出	新潟県	269	201
3	津市	新潟県	349	171	13	鱒山	長野県	233	226
4	間山	新潟県	339	226	14	小谷	長野県	229	197
5	大井沢	山形県	295	157	15	尾花沢	山形県	221	228
6	十日町	新潟県	284	183	16	只見	福島県	220	134
7	安塚	新潟県	285	232	17	小国	山形県	219	180
8	湯沢	新潟県	262	193	18	鶴舞	北海道	202	134
9	野沢温泉	長野県	279	179	19	白川	岐阜県	196	163
10	大山	鳥取県	277	243	20	新藤津	北海道	188	219

いよいよ花粉症の季節がやってきました。今年の飛散量は昨年に比べると少ないと言われていますが、既に花粉を感じている方も多いと思います。外出先から誰かが屋内に戻った時、衣服に付着している花粉を感じて突然目鼻が反応するなんていう人も。花粉症の方への心遣いとして、衣服を払ってから屋内に入る事を心掛けてみようと思います。 編集局長：小田原次洋 アシスタント：助川・寺田